

世界報道写真展

2019

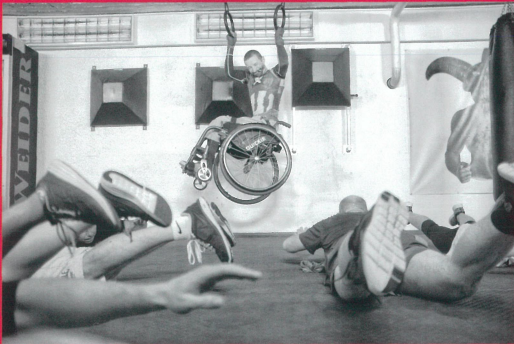
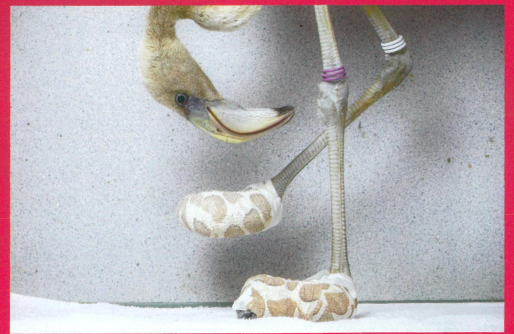
76億の目撃者たち

世界報道写真コンテストの受賞作を紹介する「世界報道写真展2019」。62回目を迎える今回のコンテストには、129の国と地域から4,738人のフォトグラファーが参加し、78,801点の応募がありました。

今年は、「現代社会の問題」、「一般ニュース」、「長期取材」、「自然」、「環境」、「スポーツ」、

「スポットニュース」、そして昨年の「人々」にかわり「ポートレート」の部の8部門において、25カ国43人が受賞しました。また新たに、複数の写真で様々な事象を表現した作品を評価する「世界報道写真ストーリー大賞」が設けられ、報道写真の表現が広がりを見せています。

「スポットニュース」の部では、ジョン・ムーアがメキシコとアメリカの国境で、母親の取り調べ中に泣き叫ぶホンジュラスの少女を捉えました。また「一般ニュース」の部では、サウジアラビアのカショギ記者が行方不明になった事件で、サウジの総領事館に押し寄せる報道陣の姿を写しています。ほかにも、シリアで続く内戦やコロンビア革命軍の元女性兵士の暮らし、オランダ領キュラソーのペニロフラミンゴを捉えた作品など、地球上で「いま」起きていることを伝える写真の数々を紹介します。



① **世界報道写真大賞 スポットニュースの部 単写真1位**
 ジョン・ムーア (アメリカ、Getty Images)
 2018年6月12日、メキシコとの国境沿いにあるアメリカ・テキサス州マッカルレンで、ホンジュラスからともに来た母親のサンドラ・サンチェスが国境監視員の取り調べを受けている間、泣き叫ぶヤネラ。

② **現代社会の問題の部 組写真2位**
 カタリナ・マーティン・チコ (フランス/スペイン、パノス)
 ヨルラティスは、コロンビア革命軍(FARC)に加わっていた間の5回に及ぶ墮胎を経て、6回目の妊娠を果たした。5回目の妊娠の時は、緩めの衣服を着て妊娠6か月になるまで指揮官に知られないようにしていたという。

③ **自然の部 単写真2位**
 ヤスバードウースト (オランダ)
 オランダ領キュラソーのFDOC(カリブ動物と教育財団)で、足の重度の障害を治すのに役立つ急ごしらえの靴下を履き、確認しているペニロフラミンゴ。

④ **スポーツの部 組写真2位**
 マイケル・ハンク (チェコ)
 チェコ共和国のパラアイスホッケー代表チームのキャプテンで、これまでパラリンピックに3大会出場しているズデニェク・サフラネクが、ジムで懸垂している。

⑤ **スポットニュースの部 組写真2位**
 モハメド・バドラ (シリア、EPA通信)
 2018年2月25日、毒ガス使用が疑われるシフォニエの村への攻撃で負傷し、治療を受ける人々。

⑥ **世界報道写真ストーリー大賞 スポットニュースの部 組写真1位**
 ビーター・テン・ホーベン (オランダ/スウェーデン、アジャンス・ウツ/シリアン・アクト)
 2018年10月30日メキシコ南部のタバナテペク郊外で、移民を載せるために停車したトラックに駆け寄る人々。途中までの乗車に代金を請求する運転手も中にはいたが、大半は支援の印として無償で乗せた。

